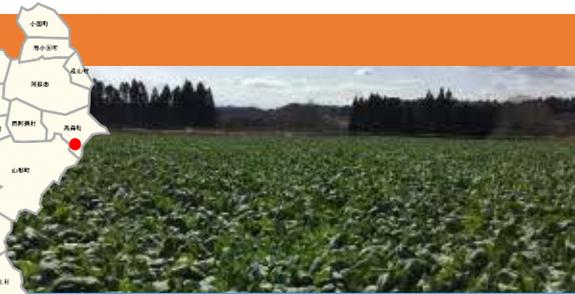


く さ か べ な ん ぶ

③草部南部地区 (高森町)

◆農家戸数 114戸
◆農地面積 164ha (うち104haは水田)

無いものを嘆くより有るもので勝負 ～魅せるぞ田舎の底力～



[中山間農業ビジョンの概要]

集落の課題(現状)

- 高齢化。農業者の60%が65歳以上
- 鳥獣被害の増加
- 露地栽培主体。異常気象で不安定
- 基盤整備が必要だが、補助の要件を満たさない
- 小規模農業・兼業農家が多い

目指す将来像

- 持続つづける地域の輪
 - ◆地域環境の整備
 - ◆地産地消の取組み
- 柱となる所得の確保
 - ◆長期栽培できる品目の導入
 - ◆自然災害に強い産地作り
- 女性の能力を前面に
 - ◆活動できる機会を提供

具体的方策

- 持続つづける地域の輪
 - ◆地域環境整備(景観作物植付、空き家の利活用、GAP、炭焼き窯建設)
 - ◆地産地消の取組み(農村交流、農家体験、日本蜜蜂、宣伝活動)
- 柱となる所得の確保
 - ◆長期栽培できる品目の導入(軽量品目導入、複合収入、小規模基盤整備)
 - ◆自然災害に強い産地作り(水路・農道管理、施設導入、機械整備など)
- 女性の能力を前面に
 - ◆活動できる機会を提供(農家レストラン、加工農産物、6次化産業育成)

[ビジョン策定のプロセス]

ビジョン策定以前

◆下切地区は11戸23名の小さな集落。狭小な農業環境で効率が悪く、離農も多い。限界集落の危機感が高まっていた。

◆平成26年11月、地元有志による営農生産活動組織「下切自然を愛する会」が立ち上がる。

◆平成29年3月、下切集落の存続に関する話し合い。

◆「中山間モデル地区支援事業」や「たかなまつり」が検討される。

モデル地区設定

◆平成29年3月、県・高森町から地元への事業説明。
◆平成29年8月、中山間農業モデル地区の設定が決まる。



下切自然を愛する会メンバー

農業ビジョンの策定

◆検討を重ね、たどり着いたのは、スローガンに謳っている「無いものを嘆くより有るもので勝負」という考え方。
◆小さな田んぼしかない、米のみだと収入が安定しない、若い後継者がいない等、無いものを嘆いても、変わらない。有るものを活用しようと、女性や高齢者でも作りやすい作物の導入を計画。
◆目指すべき将来像は下記の3つに集約された。

- ◎持続つづける地域の輪
- ◎柱となる所得の確保
- ◎女性の能力を前面に

◆平成30年1月、草部南部地区の農業ビジョン、策定完了。

活動が生んだ影響

◆農業ビジョンに大きな影響を与えたのは2つの経験。
1)大学生たちが震災ボランティアとして「農家暮らし体験ツアー」にやって来た。
2)「たかなまつり」の開催における地域の女性たちの活気。
◆これらの活動の反応が集落を活性化し、前向きな意識を生んだ。



大学生たちとの交流

③草部南部地区(高森町) 無いものを嘆くより有るもので勝負 ～魅せるぞ田舎の底力～

[具体的な取り組み 計画と取組現状]

成果目標(令和3年度):①アスパラガスの作付面積を30a増加 ②環境保全型農業の取組み面積を2haまで拡大

1. 持続つづける地域の輪

- ◆地域環境整備(景観作物植付、空き家の活用、GAP、炭焼き窯建設)
- ◆地産地消の取組み(農村交流、農家体験、日本蜜蜂、宣伝活動)



- ◆景観作物の植付(芝桜栽培・芝桜育苗)を平成27年度より活動中。
- ◆農家レストランは、令和元年度に開店したかったが、空き家を改修しないとトイレも使用できず、農林水産省の予算では足りない。
- ◆平成29年7月に、第1回GAP学習会を開催。しかし令和元年度時点、まだ動いていない。現状では難しい。
- ◆令和元年度、お祭り広場に炭焼き窯を建設予定だったが、まだ検討中。
- ◆「下切たかなまつり」には最大100名が参加。「甲斐さんちの収穫祭」は200～300名が集まる。令和元年度、のべ200名以上が当地区を訪れた。
- ◆平成29年に始まった農家暮らし体験ツアーの受け入れは、毎年1回、大学生や家族など対象を変えながら継続している。
- ◆「縁側カフェ」は令和2年4月開店。5月～10月第2・第4日曜のみ営業。
- ◆日本蜂蜜は現在、奥阿蘇物産館で販売中。一升瓶で8,000円。

2. 柱となる所得の確保

- ◆長期栽培できる品目の導入
- ◆自然災害に強い産地作り



- ◆ピーマンの導入は成功。
25a整備する予定で、平成30年度には42.6a(170%達成)の作付けを完了。
- ◆施設導入による自然災害に負けない産地作りは、平成29年度、平成30年度で実施済み。
- ◆ただし、鳥獣被害対策は強化したくても人手が不足。

ピーマンの導入。
ハウス栽培で鳥獣被害も防止。



3. 女性の能力を前面に(活動の機会を提供)

- ◆農家レストラン、加工農産物、6次化産業育成



- ◆農家レストランは令和2年4月オープン予定。
- ◆たかなまつりでは、地域の女性が来訪者とふれあい、活気がある。
- ◆加工品開発は、人員不足でまだ手つかず。ただし、縁側カフェの来訪者向けに販売できる加工品を開発したい。



[成果と今後の展開方向]

1. 全体的な成果

- ◆農村交流、農家体験ツアーは継続して実施。
地域外からの来訪者、子どもたち・若者たちとの交流は集落に活気と刺激をもたらしている。
- ◆ピーマンの作付けは順調。元の作付目標を170%達成!
- ◆自立できる6次産業の開発は、現在、取り組み中。
- ◆草刈りは年1回以上実施。イベントごとに、必ず事前に実施。

2. 今後の展開方向

- ◆後継者を作り、育てるための模索。
- ◆地域のファンづくりに手応えを感じるが、より戦略的な集客が必要である。
- ◆土産物として喜ばれる加工品・特産品の開発。
- ◆ネット販売の計画と下切ブランドの開発。